

赤十字NEWS

October 2013 Vol.881
<http://www.jrc.or.jp>



日本赤十字社



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



災害対応力の強化へ 海保と共同訓練を実施

全国各地で防災訓練が繰り広げられた「防災の日」の9月1日。日本赤十字社千葉県支部は、首都直下型地震を想定した「九都県市合同防災訓練」に参加。海上保安庁の巡視船に日赤救護班が乗船し、船内救護などの活動を連携していくための課題を検証しました。(2面に関連記事)

巡視船上に着陸した海上保安庁のヘリコプター「いぬわし」へ、海上保安官とともに重傷者の搬送訓練を行う日赤救護班員

CONTENTS

TOPICS 2

赤十字すまいるばーくで
SKE48とボランティア
首都直下型地震想定
九都県市合同防災訓練
「赤十字シンポジウム2013」
開催のお知らせ

TOPICS 3

被災地の小学校で
夢づくり隊の出前美術教室
赤十字原子力災害情報センター
救護活動の教訓を発信
おすすめ一品レシピ
常任理事会開催報告

SPECIAL 4 | 5

いのちを救う血液製剤
皆さまの血液は、
こうして患者さんに
届けられます

AREA NEWS 6 | 7

徳島・岡山・静岡・香川・東京・
宮崎・岐阜・神奈川・大分
書籍紹介
埼玉県災害義援金募集
赤十字カレンダー・手帳予約受付中
プレゼント

WORLD 8

ハイチ
大地震復興支援事業
インドネシア
地元赤十字社と地域防災事業
教えて! 国際人道法
今月の一枚



<http://www.jrc-akb48.jp/>



<http://www.jrc-undougekkan.jp>

公式Twitter
始めました



ジャパンプレス代表/
山本美香記念財団理事長
佐藤和孝さん

世界の現実、そして希望を伝えたい

30年以上にわたり世界の紛争地取材。「本当は何が起きているのか。それを伝えるのが僕の仕事。日々、世界のニュースは流れてきますが、実際に取材すると事実とは違っていることも。だから現場に行く。現場に近いほど情報は増え、現実が見えてきます」。紛争の最前線に立ち、人々の姿を伝えてきた思いをこう語ります。

しかし、伝えたいのは悲惨な現実だけではありません。「紛争の最中であっても、人々は恋をしたり、子どもも生まれる。たくましく生きている。そんな人々の希望が

平和につながることを信じて、取材を続けたい」

戦場では赤十字との接点も少なくないといいます。時には赤十字国際委員会(ICRC)の飛行機に便乗。チェンではICRCの医療活動を取材しました。ところが取材の翌日、医療キャンプが襲撃され、スタッフ全員が射殺されてしまう、そんな体験もしました。「それでも赤十字は『中立』を掲げ活動を続けている。これは本当に大事なことだと思います。人々のために危険な紛争地で活動する赤十字に心から感服しています」

PROFILE

1980年の旧ソ連軍によるアフガニスタン侵攻の取材を皮切りに、世界20カ国以上の紛争地取材。2012年からはシリア取材も継続。10月26日に開かれる「赤十字シンポジウム2013 紛争と人間」ではパネリストを務める。2003年度ボーン・上田記念国際記者賞特別賞を受賞。最新著書に「戦場でメシを食う」(新潮社)。

SKE48と一緒に JOIN! 赤十字すまいるぱーくで ボランティエアー

日本赤十字社オフィシャルメッセンジャーであるAKB48グループのSKE48のメンバーとボランティエアースタッフが9月11日、福島県須賀川市内で開催された「赤十字すまいるぱーく」を訪問。小さな子どもたちと遊び、市内の仮設住宅に住む人たちにおにぎりや豚汁を振る舞いました。

日赤は今年8月から、若い世代を中心とした多くの人たちに赤十字ボランティエアーへの参加を呼びかけるため、AKB48グループを起用したキャンペーン「JOIN!」を展開している。WE Bなどを通して展開中で、今回のボランティエアーは、キャンペーンの第一弾となる取り組みです。

参加したのは、SKE48の木崎ゆりあさん、中西優香さん、大矢真那さんの3人と、キャンペーンのWE Bサイトに応募し当選したボランティエアーなど、各地から参加した13人です。



子どもたちと笑顔で遊ぶSKE48の木崎さん(左)、大矢さん(右上)、中西さん(同下)

「勇気を出して最初の一步を」

「すまいるぱーく」で子どもたちと手をつなぎながら、巨大なエア遊具やボールプール

明治学院大学からも4人「若い力を役立てたい」

日赤とボランティエアー活動のパートナーシップを結ぶ明治学院大学からは4人の学生が参加しました。その一人、大澤夕瑛さん(国際学部2年生)は震災で大きな被害を受けた宮城県気仙沼市の大島でボランティエアー活動を行っています。「被災地の実情を知りたいと思ったのが、活動を始めたきっかけです。地元の方々との交流は楽しくて、勉強にもなります」若松健太さん(同2年生)も岩手県大槌町での復興支援活動に参加しています。「まずは行ってみよう、やってみよう」とボランティエアー活動の一步を踏み出しました。自分の若い力が少しでも皆さんのお役に立てばいいなと思って続けています



SKE48のメンバーとボランティエアーの皆さんが赤十字活動への参加を呼びかけました

大なエア遊具やボールプール、エアトラックなどで遊んだ木崎さんは「元気いっぱいの子どもたちと遊ぶことができ、楽しかったです。もっと多くの子どもたちと手をつなぐために、今度はSKE48のメンバー全員を連れてきます」おにぎりを握るなど炊き出し訓練を体験したSKE48キャプテンの中西さんは、中

「赤十字すまいるぱーく」は、原発事故の影響で外遊びが制限されている子どもたちに、思い切り体を動かす機会を提供する日赤の復興支援事業の一つ。今年度は須賀川市など福島県内6カ所で開催されています。

首都直下型地震想定

九都県市合同防災訓練 海保の大型巡視船内で救護とトリアージ

首都圏の1都3県と5つの政令指定都市による九都県市合同防災訓練。今年度は首都直下型地震に備え、津波対策や避難所開設・運営、帰宅困難者対策などの実践的な訓練に128機関、1万1000人が参加しました。

千葉港の千葉中央埠頭で行われた海上訓練は、地震により石油コンビナートや係船中の船舶で火災が発生し、付近の海上には沿岸部から転落した多数の人が漂流していると

上空からは海上保安庁(海保)などのヘリコプターで海上漂流者を救出し、火災を起こした石油コンビナートや船舶の消火へ巡視船などが二斉放水。そして、日本赤十字社の救護班は海保の巡視船に乗り込んで救護活動——「防災の日」の9月1日、九都県市合同防災訓練が開催され、千葉市内では千葉県支部の救護班が海上訓練に参加。海保など他機関との連携や船舶内での救護活動の課題などを検証しました。



災害時、海上の仮設救護所となる「いず」の大会議室には酸素吸入装置や簡易担架が備えられ、最大で一度に60人の収容が可能です



船舶内の仮設救護所からヘリポートへ重傷患者を搬送する板寺医師(成田赤十字病院)と海上保安官

千葉市内の医療施設が壊滅的な被害を受けた場合を考慮し、日赤救護班は負傷者搬送の中継基地となった大型巡視船「いず」(3500トン)に小型の巡視艇で移動。船内に設けられた仮設診療所で海上から救出された負傷者のトリアージ(治療優先度の選別)と応急処置を行い、巡視船のヘリポートに待機しているヘリコプターで重傷患者を緊急搬送する訓練を実施しました。

関係機関の通信体制も検証

救護班の一員として船内での救護訓練を行った成田赤十字病院の板寺英一医師は「やけどによる負傷者は気道熱傷により突然症状が重くなるケースがあり、トリアージの判断が難しい。コンビナート火災による負傷者の救護という前提でしたから、そうした点にも留意しながら取り組みました」

※千葉県支部と千葉海上保安部は平成22年に救護活動に関する業務協定を締結。海難事故の際、救護班の派遣要請が行われる一方、千葉海保は救護班を海上搬送することになっています。

紛争と人間
～人間を救うのは、人間だ。～
赤十字シンポジウム2013

年末の「海外たすけあい」キャンペーンの一環として毎年開催される「赤十字シンポジウム」。赤十字国際委員会(ICRC)誕生150周年の今年、赤十字思想が生まれた原点である「紛争」がテーマです。紛争予防や武装解除、犠牲者支援などの分野で活躍する専門家やジャーナリストをパネリストに迎え、日本人にとって「紛争」とは何か、国際社会や私たちにできることは何かなどを考えていきます。

日時 ●平成25年10月26日(土) 14:30～16:30(予定)
会場 ●表参道ヒルズ本館地下3階 スペースオー(東京都渋谷区神宮前4-12-10)

●コーディネーター 柳澤秀夫(NHK解説委員長)

●パネリスト
佐藤和孝(ジャパンプレス代表・一般社団法人山本美香記念財団理事長)
瀬谷ルミ子(認定NPO法人日本紛争予防センター理事長・(株)JCCPM取締役)
井上忠男(学校法人日本赤十字学園常務理事・事務局長)

●お申し込み
インターネット、FAX、はがきで受付。
詳しくは「赤十字シンポジウム2013」特設サイトをご覧ください。
<http://www.redcross2013.org>

●締め切り
はがき◎10月15日(火)必着
インターネット・FAX◎10月15日(火)23:59まで

お問い合わせ先
日本赤十字社国際部企画課 TEL03-3437-7087(平日9時～17時)



情報センターの情報発信の中核となるデジタルアーカイブ
http://ndrc.jrc.or.jp

10月1日 スタート 赤十字原子力災害情報センター 福島救護活動の経験・教訓を 国内外に発信

日本赤十字社は、福島第一原発事故での救護・救援活動の経験や教訓を今後活かしていくため、「赤十字原子力災害情報センター」を10月1日付で東京・港区の本社内に設置。同日よりデジタルアーカイブによる情報発信をスタートさせました。

情報センターが取り組む主な活動は「今後の原子力災害の発生に備えた、赤十字活動のガイドライン策定と普及」および「デジタルアーカイブによる情報蓄積と発信」。この二つを進めていくため、国内外の専門家や機関と連携し、研究会やセミナーなども

実施していきます。赤十字活動のガイドラインは、予防から救護・救援、復旧・復興に至るまでの、ボランティアを含めた幅広い活動を念頭に策定するもの。事前準備する装備や放射線教育、避難が長期化した際の被災者支援のあり方などを含め、今

「夢づくり隊」 4回目の出前美術教室 被災地の小学校にあふれる笑顔



「もっと高く!!」ビルダーカードを組み立てて未来を築こう!

東日本大震災の被災地の子どもたちに「夢と元気」をお届けようと、日本赤十字社と千葉県立美術館の合同チーム「夢づくり隊」が9月10日、福島県相馬市の市立飯豊小学校で出前美術教室を行いました。夢づくり隊の活動は昨年夏、岩手県釜石市でスタートし、今回で4回目。プログラムは、画用紙に水彩絵の具で描いた絵や模様をバッチに加工する「虹色パレット缶バッチ」の制作と、大小の円形厚紙「ビルダーカード」によるオブジェ制作です。自分の好きな色で描いた絵が缶バッチに変身すると、

「ワー、きれい」「新しい洋服に着けてみたい」と教室中に笑顔があふれます。中には金メダルのようなバッチや、七色の虹のバッチも。1万2000枚のビルダーカードを使った創作活動のテーマは「夢のまちをつくらう」。子どもたちは広い体

育館をいっぱいを使い、友達と協力しながら思い思いの形作りに挑戦しました。子どもたちの心を芸術で解きほぐす。震災当時、同小学校の間近まで津波が押し寄せ、自宅や親類を失った子どももいます。一時は全校児童の1割強が仮設住宅などで不自由な生活を送っていました。高橋誠校長は「子どもたちが心の中に閉じ込めたものを発散させようと、全校で芸術活動に取り組んできました。それによって笑顔になることが大事。今日の子どもたちは心から笑っています。本当にありがたいですね」。

2013年グッドデザイン賞、キッズデザイン賞、W受賞!

夢づくり隊の取り組みが、優れたデザインコミュニケーションサービスとして評価されました。

分と向き合い、次に友達と協力して何かを作るといって『静と動』のプログラムが、これからの地域づくりにつながっていくべき」と期待します。この取り組みは、海外の赤十字社などから寄せられた海外救援金を財源にした「日赤キッズクロスプロジェクト」の一環です。

後まわっていきます。原子力災害に関する各種情報・データを収集し、発信していくデジタルアーカイブには、福島第一原発事故の際の日赤の救護活動の記録や、福島赤十字病院の医師や看護師、他県から派遣された救護班員、支部職員などのインタビューなどが掲載されています。デジタルアーカイブはインターネット上で公開され、本社1階には、情報センターの展示・セミナースペースも設置されます。

総会は、原子力災害時の被災者支援対策強化を決議。昨年5月に東京で開催された「原子力災害対策にかかわる関係国赤十字・赤新月社会議」では、情報の蓄積や共有化、被災者支援の国際的なガイドライン策定などが合意されました。国際赤十字におけるこうした一連の経過を踏まえて設置された情報センター。西島秀一救護・福祉部長は「原発が稼働している以上、常に災害リスクはあります。そこを踏まえて、赤十字として何ができるのかを考えていきたい。また、情報センターの取り組みを国際的なガイドライン策定につなげていきたい」と決意を述べています。

常任理事会開催報告

平成25年9月27日、東京プリンスホテルにおいて平成25年度第5回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

1 予算の補正について
(高松赤十字病院の電子カルテシステム整備及び熊本赤十字病院の医療機器購入にかかる医療施設特別会計歳入歳出予算の補正)
(高松赤十字病院及び釧路赤十字病院の電子カルテシステム整備にかかる資金の借入)
審議の結果、予算の補正及び資金の借入については原案のとおり議決されました。

また、高松赤十字病院の施設整備計画、赤十字奉仕団の活動、赤十字原子力災害情報センターの設置及び予算の補正にかかる7月及び8月分の社長専決事項等の決定状況について、それぞれ報告しました。

食欲の秋!

日本赤十字社熊本健康管理センターの編集による「健康菜譜」レシピ本。おいしく健康に良い、選りすぐりの料理の中から、季節にぴったりの一品を紹介します。

おすすめ一品レシピ

さつまいもと野菜のグラタン

[1人あたり] 170kcal / 塩分 0.7g / たんぱく質 5.1g

材料(2人分)

さつまいも	1/4本(40g)
ブロッコリー	2房(20g)
ねぎ	5cm(10g)
ミニトマト	4個
小麦粉	大さじ1.5
バター	小さじ2.5
牛乳	160ml
塩	小さじ1/5
こしょう	適宜
とろけるチーズ	10g

作り方

- さつまいもは1~2cmのサイコロ切りにし、ブロッコリーは小房に分け、それぞれゆでる。ねぎは斜め切り、ミニトマトは半分に切る。
- 小麦粉をバターで焦がさないように炒め、温めた牛乳を加えながら溶きのぼし、塩、こしょうで調味し、ホワイトソースを作る。
- 器にねぎを敷き、さつまいも、ミニトマト、ブロッコリーをのせ、ホワイトソースをかけてチーズを散らす。
- 盛り付けた器をオーブンに入れ、表面にこんがり焼き色がつく程度に焼く。

日頃不足しがちなカルシウムと食物繊維を多く含む食材で、食事のバランスを整える一品です☆

熊本健康管理センター内および熊本赤十字病院内の売店、熊本県内の主な書店、日赤サービスのオンラインショップ(<http://www.nisseki-service.com>)でお買い求めいただけます。

お問合せ
熊本健康管理センター 健康栄養課
(TEL: 096-387-6653) まで

いのちを救う血液製剤

献血された血液は、どうやって製剤になるの? 東京・辰巳(江東区)の関東甲信越ブロック血液センターを訪ねてみたっ!



献血された血液は、献血ルームや献血バスなどから全国13カ所のブロック血液センターや製造所へ運ばれます。そこで検査や製造が行われ、365日24時間体制で、輸血を必要とする医療機関へ迅速に届けられています。

主な輸血用血液製剤

現代の輸血医療では、必要な成分だけを輸血する「成分輸血」が主流に、それに対応するため、血液を成分ごとに分離した製剤が作られています。

「赤血球製剤」
有効期間: 採血後21日間
保存温度: 2~6℃



「血漿製剤」
(新鮮凍結血漿)
有効期間: 採血後1年間
保存温度: -20℃以下



「血小板製剤」
有効期間: 採血後4日間
保存温度: 20~24℃



※献血血液のうち、血漿の一部は「血漿分画製剤」の原料となり、「血液凝固第四因子製剤」や「免疫グロブリン製剤」「アルブミン製剤」などが作られます。

皆さまの血液は、こうして患者さんに届けられます

200mL、400mLの全血献血の場合

血液搬入



関東甲信越ブロック血液センターに集められる血液は1日に約2500人分、全国では1万4000人分以上にも。採血から製造までの時間が決められているため、各献血ルームや献血バスからは1日に2~5回ずつ運ばれてきます。搬入後はコンピューターシステムで献血時の情報と照合。バーコードで情報を管理します。

生きた臓器である血液の有効期限は短い。検査と製造が同時並行で進められます。検査で不合格になった血液は製品化の段階で取り除かれ、出荷されることはありません。

血液製剤の製造は時間との闘いだっ!

検査



血清学的検査

血液型、感染症検査および生化学検査などを行い、輸血しても問題がないか、安全性を確認します。

核酸増幅検査(NAT)

感染していてもすぐには検出されないB型・C型肝炎ウイルスやエイズウイルス(HIV)を探し出すため、ウイルスの遺伝子(核酸)を約1億倍に増幅します。血清学的検査に合格した血液は、その日のうちに全国4カ所(北海道、東京、京都、福岡)のNAT施設へ送られ、365日24時間体制で検査が行われています。

検査で不合格となる血液の多くは、病気ではなく「献血者の肝機能に問題あり」と判定されたもの。しかし、まれに肝炎やHIVウイルスの感染も発見されています。

製造

1 白血球を除去



血液バッグをろ過台につり下げて約20分。極細繊維で作られた白血球除去フィルターに血液を通すことで、輸血の副作用(発熱・発疹など)の原因となる白血球が1000分の1以下のレベルにまで取り除かれます。

2 遠心分離



1分間におよそ3000~4000回転という猛スピードで回転する遠心分離機で約10分。血液は、赤血球と血漿に分離されます。

目が回る~! 成分の比率によって分離するんだっ!

3 成分ごとにバッグ分け



分離装置で血液バッグに圧力をかけ、赤血球と血漿をそれぞれのバッグに分けます。赤血球のバッグにはMAP液(赤血球保存用添加液)を混ぜます。

5 製品化へ最終チェック



コンピューターシステムで検査結果と照合。検査に合格した血液だけが供給部門へと運ばれます。

コンピューターと人間の目のダブルチェックで、厳重な品質管理を徹底してるっ!

4 ラベリング・包装



バッグにラベルを貼って、包装します。血液の色やバッグの不良、重量が規定の範囲内であるかなどを職員が一つひとつ手に取り、目視で確認。血漿は箱詰めし、急速凍結します。

副作用防止へ~X線照射



血液製剤以外の血液製剤には、輸血後のGVHD(移植片対宿主病)を防止するため、放射線を照射するものもあります。GVHDは、輸血用血液製剤の細胞が患者の細胞を「異物」として攻撃する。致死率の高い副作用です。

保管

製剤ごとに異なる保管方法



各血液製剤は、その成分ごとに適切な温度管理の下で保管されています。赤血球製剤(写真左)は2~6℃の冷蔵庫。血漿製剤(写真中央)は-20℃以下で冷凍保存。血小板製剤(写真右)は20~24℃で水平に揺らしながら保管します。

血小板が固まらないように、絶えず揺らしているんだっ!

供給

供給体制は365日24時間



製造された血液製剤は、医療機関からの注文に応じて各都道府県の血液センターが供給・納品します。365日24時間いつでも供給できる体制が整えられています。

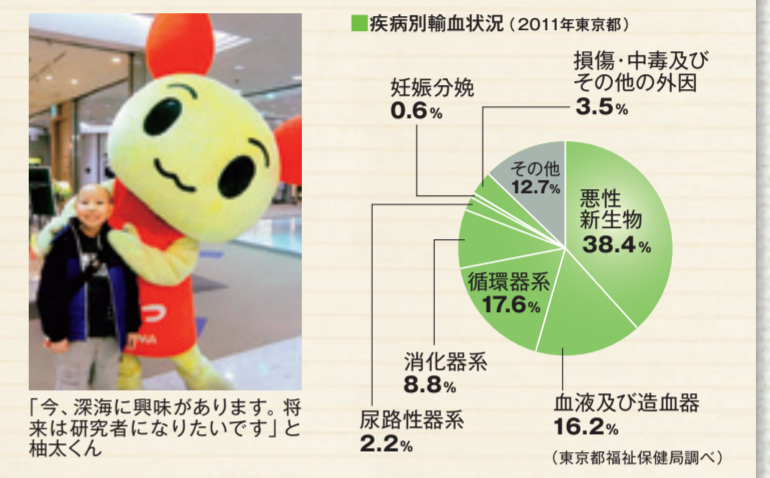
献血が救う年間100万人のいのち

輸血を受ける患者さんは1日に約3000人。年間100万人以上のいのちが輸血により救われています。輸血用血液製剤の8割以上は病気の治療に使われていて、そのうちの多くは悪性新生物(がん)や白血病の治療。抗がん剤投与によって血液をつくる機能に障害のある患者さんに、輸血が必要だからです。

神奈川県鈴木太くん(10歳)は5歳の時に脳腫瘍になり、その治療中に26回の輸血を受けました。太くんは「輸血のおかげで、今は毎日元気に学校に通っています」と献血してくれた人へ感謝のメッセージを寄せています。

神奈川県赤十字血液センターは、太くんをはじめ輸血治療で元気になった子どもたちの闘病中やその後の姿を追ったDVD「献血、ありがとう」を作成。DVDは同血液センターのホームページで公開されています。ぜひご覧ください。

<http://www.jrcs-kanagawa.org/ketueki/>



けんけつちゃんも聞く、血液製剤のこと!

安定供給を目指して 大切な血液を余さない、切らさない

\\ 答えてくれる人 /
血液事業本部供給管理課 旗持俊洋 課長



Q 血液製剤が足りなくなることはないっ?

A 使われる血液製剤が日々どのくらいの量になるのかを、過去の実績データや医療機関への聞き取り調査に基づいて予測し、各血液センターの在庫量が最適になるよう、採血計画を作成しています。この計画などに基づいて、「今日はA型が〇人足りません」という呼びかけや、登録者を対象にメールや電話で献血のお願いをしています。

Q 緊急の手術などで大量輸血が必要になっても大丈夫?

A 例えば赤血球製剤の場合、平日の平均使用量の3日分を「適正在庫」としているため、病院から急なオーダーがあっても基本的には問題ありません。それでも足りない場合は、血液センター間で融通し対応しています。時には遠くの血液センターに、新幹線や飛行機を使って血液製剤を運ぶこともあります。

Q 期限切れを出さないために、何かしてるっ?

A 血液事業は、各都道府県の47の血液センターと、それらを管轄する7つのブロック血液センターで運営しています。各血液センター間では、有効期限が迫った血液製剤から出荷しているよう、相互に在庫を調整しています。さらにブロック血液センターと本社間ではテレビ会議を隔週で開催し、需給の現状と見込み、在庫推移などを確認しています。献血者の善意がこもった大切な血液。廃棄する量をゼロに近づけられるよう適切な在庫管理をさらに進めています。



テレビ会議では、常に1カ月先までの献血量と供給量を予測し、過不足のない適正在庫管理を徹底します

AREA NEWS

JRC小学生が街頭募金 温かい気持ちを海外に



「海外には、勉強をしたくてもできない子どもたちがいます」「文房具を贈ってあげたいので、ご協力をお願いします」。うだるような暑さの中、青少年赤十字(JRC)の小学生メンバーによる1円玉街頭募金が8月2日、徳島市内で行われ、6年生11人が大きな声で募金への協力を呼びかけました。

小学生メンバーが街頭での1円玉募金の呼びかけを行うのは徳島県では初めて。メンバーは募金の使途を事前に学び、募金の使われ方を描いた看板を作成。募金を訴えるキャッチフレーズも自分たちで考え、大きな声で呼びかける練習をして本番に臨みました。子どもたちの訴えに多くの人が足を止め、40分ほどの活動で6871円が集まりました。



「ご協力ありがとうございました」と言うメンバーのさわやかな声が暑さを吹き飛ばします

けんけつちゃんも踊ったよ! 初音ミクと献血PRでコラボ



関東甲信越ブロック血液センターは、8月30日に横浜アリーナで開催されたイベント、初音ミク「マジカルミライ 2013」にブースを出展し、来場者に献血啓発を行いました。

インターネットを通じて若者に人気の高いバーチャル・アイドル「初音ミク」。ライブをはじめとした参加型の文化祭として開催された同イベントには、1万5000人のファンが集まりました。同ブロック血液センターのブースでは、高校生ボランティアと職員が初音ミクの楽曲でダンスをしているPR動画を上映。針を刺さない血液濃度測定体験は常に行列ができるほどの大盛況となりました。また、屋外駐車場スペースに設置した献血バスでは、76人のファンが献血に協力しました。



ダンスの動画はYouTubeで公開中。「献血 踊ってみた」で検索してください

わけもん800人が集結 学生が献血イベント



宮崎県赤十字血液センターは9月1日、宮崎市内で「わけもん!集まれ!GOGO 献血 in 宮崎」を開催。約800人の参加者に献血への理解と協力を呼びかけました。

このイベントは、九州・沖縄各県の大学や短大、専門学校48校の学生で組織する「九州ブロック学生献血推進協議会」が企画。「献血学園」の体験入学授業という設定で、輸血の約8割が「がん」などの病気治療に使われていることなどを学習しました。人気お笑いコンビのガレッジセールやペナルティーなども出演し、イベントを盛り上げました。参加した大学生は「献血は何回か経験がありますが、今日は輸血を受けた方の話を聞いて良かった。これからも献血します」と話しました。



学生献血推進協議会は、大学や街頭で献血普及活動などを行っています

医療目指す生徒にエール 中高生が医師・看護師体験



高山赤十字病院は看護や医療に興味のある中高生を対象にした体験学習会を7、8月に計3回、延べ5日間にわたり実施しました。

看護体験は、岐阜県ナースセンター主催の「看護の心普及事業」の一環です。参加した中高生74人は看護師と一緒に足浴や清拭を行ったほか、人形を使った「身体の観察」では聴診器で心臓や肺の音を確認。高齢者や妊婦の疑似体験にも挑戦しました。また、医師などを対象とした体験学習には103人が参加。デモ機を利用した胃カメラ体験や医療機器の説明を受けました。参加者からは「今まで以上に医師の大変さが分かり、医師を目指す気持ちがより強くなった」などの感想が出されました。



看護体験では、看護師の一日を体験。「やりがいを感じました」とうれしい感想も

支部長、院長も大乱舞! 阿波おどりで日赤をPR



4日間で123万人が訪れ、街中が踊り一色に染まった徳島の「阿波おどり」。徳島赤十字病院や県支部の職員などからなる日赤連の約130人が8月14日、市内の演舞場に踊り込み、赤十字活動への支援などを呼びかけました。

県支部長を務める飯泉嘉門徳島県知事と日浅芳一院長が切れのある踊りで先導した日赤連。研修看護師らの艶やかな女踊りに続き、医師・研修医らによる地響きの伝わるような足さばきの男踊りが披露されると、踊り子たちの熱気は最高潮に。監場浜演舞場では、マイクを向けられた飯泉支部長が「健康な血管を維持するために、健診を受けましょう!」と桟敷席の観衆に向かって呼びかけました。



徳島赤十字病院のキャラクター「踊る血管くん」の愛くるしい踊りも観客を魅了

赤十字支援自動販売機 県内50台目を達成



岡山県支部が県内に設置を進めている「赤十字活動支援自動販売機」が50台目に到達。設置協力者の岡山プラザホテル株式会社、アサヒ飲料株式会社の関係者らとともに8月27日、除幕式が開催されました。

売上金の一部が災害救護活動や救急法の講習などに役立てられる「赤十字活動支援自販機」。県内では、平成22年2月に1台目が設置され、現在は5つの市に広がっています。50台目の設置に協力いただいた岡山プラザホテル株式会社の永山久夫代表取締役社長は、「より多くの方々に気軽に協力してもらうには、さまざまな人の目に留まる自販機が効果的。赤十字のアピールにもつながります」と話しています。



自販機は赤十字マークを大きくデザイン。前面には赤十字活動を紹介するパネルも

世代を超えて交流 高校生と奉仕団が防災学習



藤枝市赤十字奉仕団の11人と青少年赤十字(JRC)加盟校の静岡高校2年生の37人が8月30日、交流会を開催しました。

交流会は、同校の防災学習授業の一環として行われたものです。ハイゼックス(包装食袋)を使った炊き出しを奉仕団員が指導したり、三角巾を使った応急手当をともに実習したり。昼食時には、協力して作った炊き出しを一緒に食べ、会場は温かい雰囲気になりました。交流会を担当した同校の若林真理子教諭は「生徒には、災害について学ぶと同時に異世代の方とのコミュニケーション能力を養ってほしい」。同奉仕団の門長ひさ江委員長は「市内の他校にも声をかけ、今後も交流活動を広げていきたい」と意気込みを語っています。



奉仕団員の指導を熱心に聞く生徒たち。おいしい炊き出しができました

JRCリーダー養成トレセン 12校から70人が参加



香川県支部は、県内の青少年赤十字(JRC)に加盟する小・中・高校生を対象とする青少年赤十字リーダー養成トレーニング・センターを8月3～5日に開催。12校から70人が参加しました。

健康安全プログラムを課題としたフィールドワークでは、担架搬送やAED(自動体外式除細動器)を使った「関所越え」に、メンバー同士が協力して挑戦。ワークショップのまとめでは、赤十字の国際活動や献血をテーマにした寸劇を行いました。参加メンバーからは「学校でもリーダーとして頑張りたい」「みんなと力を合わせることが大切だと感じた」「赤十字や献血のことを家族みんなに伝えたい」など意欲的な声が聞かれました。



力を合わせて担架搬送。仲間がいるから高い「関所」も越えられます

書籍紹介

絵本になった赤十字の原点 「赤十字の父 アンリー・デュナン」

赤十字創始者であるアンリー・デュナンの生涯を軸に、赤十字の原点と目指している理想を分かりやすく描いています。長野県支部で販売中、全国からの注文も受け付けています。



A4判 23ページ
定価 1200円(税込み・送料別)
作成 長野県赤十字広報奉仕団 紙芝居班

●お問い合わせ・ご注文は、長野県支部組織振興課 TEL 026-226-2073 まで。

義援金受付中

災害被災者への義援金にご協力をお願いします

9月に発生した竜巻や台風により、人的被害や住家被害が発生しました。日本赤十字社は被災された方々の生活再建の一助とするための義援金を募集中です。

- 名称 埼玉県竜巻災害義援金
- 受付期間 平成25年10月31日(木)まで
- 受付口座 郵便振替 00200-5-1021
- 加入者名 日本赤十字社埼玉県支部竜巻災害義援金
※窓口での取り扱いの場合、振替手数料は免除されます。
- 名称 埼玉県台風18号災害義援金
- 受付期間 平成25年10月31日(木)まで
- 受付口座 埼玉りそな銀行 さいたま営業部 普通預金「4065370」
- 口座名義 日本赤十字社埼玉県支部 支部長 上田 清司(うえだ きよし)
※同一金融機関の本支店間の振込み手数料は無料となります。

お問い合わせ 埼玉県支部 振興課 義援金担当 TEL 048-789-7117
※受領書の発行を希望される方は、その旨を埼玉県支部あて個別にご連絡ください。
※詳しくは埼玉県支部へお問い合わせください。

予約受付中!

2014年版 赤十字カレンダー&赤十字手帳

赤十字カレンダー (限定2800部)

丸ごと一年、日本赤十字社の活動をご紹介します。カレンダーです。



- ・1部900円(消費税込・送料別)
- ・ヘッダー綴じ壁掛けカレンダー
- ・縦51cm×横36cm
- ・13枚綴り

赤十字手帳 (限定3万1000冊)

毎年ご愛顧いただいているコンパクトでスリムな手帳。好評の別冊便覧には献血できる場所などの情報を掲載。



- ・1冊300円(消費税込・送料別)
- ・赤白リバーシブルカバー
- ・別冊赤十字便覧
- ・縦15cm×横9cm

【お申込方法】

- FAX / 03-3456-1432 ●ホームページ / <http://www.nisseki-service.com>
- メール / info@nisseki-service.com ●TEL / 03-3437-7516
- ご来店 / 日本赤十字社本社1階
- お薬書 / 〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 (株)日赤サービス

カレンダー、手帳ともに11月下旬発送予定。どちらも数に限りがあり、無くなり次第販売終了。お申し込みの際は、ご希望の商品名、部数、お名前(ふりがな)、電話番号、送付先住所(郵便番号含む)をお知らせください。詳細は(株)日赤サービスホームページにて <http://www.nisseki-service.com>

プレゼント

上記掲載の①赤十字カレンダー、②赤十字手帳をそれぞれ3名様にプレゼントします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

- ①希望するプレゼント番号
- ②お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ③郵便番号・ご住所 ④電話番号 ⑤年齢
- ⑥赤十字NEWS 10月号を手にされた場所(例/献血ルーム)
- ⑦赤十字NEWSへのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

応募先 ● 郵送 / 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 企画広報室 赤十字NEWS 10月号プレゼント係
FAX / 03-3432-5507
メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 10月号プレゼント係」)

応募締切 ● 10月28日(月)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

九都県市合同防災訓練 警察・消防・自衛隊と連携!

神奈川県

神奈川県支部は、8月下旬から9月中旬にかけて県内で実施された「九都県市合同防災訓練」に参加。県内4会場で、医師や看護師などで編成される日赤救護班を派遣し、赤十字ボランティアと連携した医療救護活動を行いました。



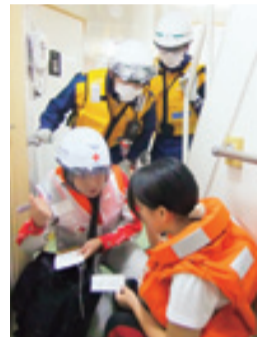
救護訓練は横浜救急医療チーム(YMAT)と協力しながら進められました

訓練は地震により市街地に大規模な被害が出ているとの想定で行われたもの。赤十字以外にも警察や消防、自衛隊など複数の機関が参加し、相互の連携を確認しました。救護班は救護所に運ばれてきた傷病者に対し、トリアージ(治療優先度の選別)と応急処置を施しました。横浜会場では、林文字横浜市長が訓練を視察。「赤十字の動きは活発で頼もしく思います」とうれしい感想が出されました。

津波想定し海難救助訓練 海保、県防災航空隊と連携

静岡県

「防災の日」の9月1日。静岡県総合防災訓練の一環として、富士市の田子の浦港で行われた海難救助訓練に静岡県支部が参加し、清水海上保安部や静岡県消防防災航空隊と連携した負傷者救助を訓練しました。



狭い船内通路でのトリアージ。動線確保も重要です

津波により旅客船が座礁したとの想定の下、救護班は船内での患者搬送や仮救護所の運営を確認しましたが、狭い通路や急な階段での活動に戸惑う場面も。救護員からは「特殊な環境や条件に応じた訓練の必要性を認識できた」「他機関との情報共有が不十分だった。今後に反映させたい」などの意見が聞かれました。清水海上保安部の職員は「洋上での医療従事者の協力は心強い。今後も日赤との連携を深めていきたい」と連携強化に期待を寄せました。

夏休みに幼児安全法講習 高校生・学生の40人が参加

大分県

大分県支部は、学校の夏休み期間中の7、8月、2回にわたって「高校生・学生対象赤十字幼児安全法講習会」を開催しました。



珍しくない幼児の誤飲事故。手当の方法は誰もが身につけておきたいもの

講習会には保育や看護、ボランティアに関心を持つ県内の高校生や専門学校生の40人が参加し、乳幼児の事故予防や手当の方法、病気への対応法などを学びました。

講習では、ストッキングなど身近なものを使ったけがの手当、乳幼児の心肺蘇生、AED(自動体外式除細動器)の取り扱い方、子どもの喉に物が詰まったときの手当などをグループに分かれて練習しました。将来保育士を目指している高校生は「保育士になったら、いざというときにしっかり使えるようにしたい」と話しました。

赤十字減災セミナー 県内から開催希望が殺到

静岡県

静岡県支部が昨年度から実施している「赤十字減災セミナー」が県内で高い関心を集めていて、奉仕団や自治会など70団体から開催の要望が寄せられています。



バンダナを使った手のけがの手当。上手にできたかな?

減災セミナーは、大災害発生時にお互いが自助・共助の役割を果たしていくため、一人ひとりに何が出来るのかを考えていくもの。応急手当や感染症予防などのノウハウを学ぶとともに、避難所生活を想定し、毛布をガウン代わりにする方法や新聞紙でのスリッパ作りなど、身近なものを使った生活の工夫も実習します。8月3日に静岡県支部で行われたセミナーには35人が参加し、受講者からは「日常で使用しているものを利用できる方法を学べて良かった」との感想が出されました。



ハイチ大地震復興支援事業

住民が担い手となる疾病予防活動へ 600人のボランティアを育成

ハイチ大地震から3年半。復興支援に向けたさまざまな取り組みの一つとして日本赤十字社が支援しているのが、脆弱な保健衛生環境の改善です。国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)と共同で住民参加型の健康や衛生に関する保健事業(Community Based Health and First Aid: CBHFA)を展開しています。2012年9月から現地地で活動を続けてきた大阪赤十字病院の安藤享子看護師に活動の現状を聞きました。

日赤が保健事業に取り組むのは、震源地に近い小さな町レオガン。自然が豊かな山間部の地域です。しかし雨期(2~6月)やハリケーンシーズン(7~11月)には、川の氾濫や道路冠水が発生。安藤看護師は「ゴミのポイ捨てが人々の習慣になっているため、水がたまるとすぐに蚊などの虫が発生し、マラリアやデング熱の感染が広がってしまいます」と問題点を指摘します。この事業では、蚊帳を配付するなど感染予防の対策を講じるとともに、トイレや水汲みなど保健衛生に関わる生活習慣の改善を促します。その活動の担い手とな

るのが、地域で募ったボランティアたち。一連のトレーニングを受けた後、家庭訪問やグループセッションで健康相談を行ったり、保健情報を提供したりします。「この事業では600人のボランティア育成を目標に掲げていますが、その数はすでに560人に。『地域の健康を守るために本当に役立っている』という声が聞かれます。ボランティアの中には、引っ越しや学業を理由に活動を休止する人もいますが、『レオガンに戻ったら、必ずボランティアを再開する』とうれしい言葉を残してくれる人も少なくありません」



蚊帳はこれまでに1万7172張が配られ、使用率は80.4%まで向上



紙芝居を使った衛生教育。「自分たちの地域は自分たちで守る!という意識を持ってもらわない」とハイチ赤十字社のスタッフ

自立に向けた意識改革を

「蚊帳の中は暑いけど、マラリアにならないためには我慢するんだよ!」。5歳の女の子がみんなの前で話をします。紙芝居を使った健康促進活動は子どもたちに大人気。「みんな目を輝かせて聞いてくれます。活動が徐々に定着してきていることを実感できる一コマです」(安藤看護師)しかし課題も残されています。自立に向けた人々の意識です。ある地域の代表は

日赤への感謝と同時に「自分たちでも何かしたいが、物品などの助けがないと難しい」と話します。こうした声に対し安藤看護師は「地域環境の改善や病気の予防には、普段からの心がけや行動も大切。支援に頼らずに自立していくには、根本的な意識改革が必要です」と訴えます。

CBHFAは来年いっぱい継続していく予定で、今後は、現地スタッフやボランティアの自立性、持続力を養うことにも力を注いでいきます。

インドネシア

災害リスク軽減へ住民自らが行動を 地元赤十字とともに進める地域防災事業

災害多発国として知られるインドネシア。日本赤十字社は2012年9月より駐在員を派遣し、同国の赤十字社が取り組んでいる草の根防災事業を支援しています。支援開始から1年間にわたり現地へ派遣され、事業の準備に取り組んできた吉田祐子駐在員に話を聞きました。

2004年のスマトラ島沖地震・津波災害で大きな被害を受けたインドネシア。地震だけでなく、129カ所の活火山による噴火リスクを抱えているほか、洪水も頻発しています。災害への脆弱性を草の根レベルで軽減していくため、インドネシア赤十字社(インドネシア赤)が取り組んでいるのが地域防災事業(Integrated Community Based

Risk Reduction = ICBRR) です。ジャワ島西端のバンテン州の6つのコミュニティを対象に、①地域の災害リスクを住民同士で話し合う場の設置 ②ハザードマップの作成 ③避難訓練や救急法講習の実施 ④草の根防災ボランティアの養成などを行っていきます。インドネシア赤の州・市・県支部が将来にわたって事業を継続し、対象コミュニ

ティーを拡大していくことも重要です。吉田駐在員は「6つのコミュニティだけでは、防災力向上は“点”に過ぎません。インドネシア赤が能力を強化し、対象コミュニティを拡大して初めて、地域防災強化が実現できます。そのためには、地域行政との協働も課題です」と話します。このため初年度は、事業を進めるための下準備に多くの時間が費やされました。

持続性の視点から

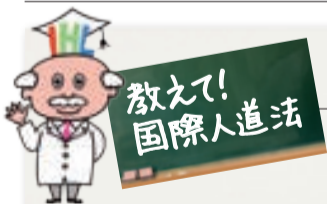
スマトラ島沖地震・津波復興期より始まったICBRRですが、バンテン州での実施は初めて。このため、実施主体となる支部の理解の向上、実務及び実施能力向上の研修から事業が始まりました。日赤は、インドネシア赤の災害管理、会計、人事、組織能力強化の各部署と連携しながら、支部への技術支援を通し、間接的に草の根防災に取り組めます。



「住民から話を聞くことはとても重要」と話す吉田駐在員(写真左)

吉田駐在員は「他地域で行った同様の事業でもそうでしたが、住民が防災事業に寄せる期待と関心はとても高いんです。ところが、事業の継続と近隣コミュニティへの拡大はそう簡単ではありません。息の長い取り組みが必要で、3年間の事業期間が予定されるICBRRはその第一歩に過ぎません」と指摘します。

日赤は現地に駐在員を派遣するなど支援を継続していきます。



IHL (International Humanitarian Law = 国際人道法) 博士が国際人道法の疑問に答えます。

今月の疑問 違反したら罰則があるの?

Q 国際人道法を守る義務は誰にあるの?

A 戦争のルールを定めた国際人道法の順守義務は国と個人の両方にある。そして条約締約国には国際人道法に違反した個人、つまり戦争犯罪人を処罰することが義務づけられておるんじや。この「個人の処罰」という考え方は、第2次世界大戦後にナチスの戦争犯罪を裁いたニュルンベルク軍事裁判で確立された。国際人道法という国際社会のルールでも個人が処罰されるという考えは、当時としては画期的なことだったんじやよ。

Q 違反行為を抑止するには何が重要な?

A 窃盗や殺人などの犯罪抑止に警察や司法の力が不可欠のように、違反行為(戦争犯罪)の抑止には国際社会による圧力が重要じゃ。1990年代のルワンダ紛争や旧ユーゴ紛争では、国連主導で戦争犯罪人を罰する裁判所が設置され、重大な違反を犯した政治家や軍人に処罰が下された。2003年には国際刑事裁判所がオランダのハーグに常設されるなど、戦争犯罪を許さない国際的な仕組みは少しずつ前進しておるんじや。

赤十字150年 今月の一枚 - 写真で振り返る赤十字 -

昭和39年(1964年)に東京で開かれた「国際身体障害者スポーツ大会」で海外選手の通訳を行う赤十字語学奉仕団



東京オリンピックに続いて開かれた「国際身体障害者スポーツ大会(東京パラリンピック大会)」が結成のきっかけとなった赤十字語学奉仕団。160人のボランティアが、競技参加者の出迎え、滞在中の生活、通訳、帰国を支援しました。